

## 歴史的資源の活用した持続可能なまちづくり 観光と地域経済活性化

歴史まちづくりにおいて、地域の文化財等の歴史的資源を活用しながら継承する手法は多数あり、各地で工夫を凝らして行われている。歴史的資源の真正性を担保しながら継承する際、課題は多岐にわたるものの、単体の保存、保護に限らず面的な保護等を行えるよう法律等の整備も進められている。

今回は、歴史的風致を維持する活動の継承につながり、歴史まちづくり法の目的でもある文化財を含む地域の歴史的資源に即した保護や保存を行いながら、歴史的風致を維持、継承するための事例を取り上げる。

上記に該当する事例は多数あり、各地で多様な取り組みが行われているが、特に地域経済活性化につながる観光と空き家対策に関連する事例を下記三通りに分けて取り上げる。

- 1 歴史的な建造物などを改修した事例
- 2 立地や地域の特性を生かしている事例
- 3 祭祀や伝統産業、食などに関連する事例

これらを宿泊施設、物販や飲食店、催事、食、そして空き家対策に分けて紹介する。

また、いくつかの事例は複数の角度から見ることができ各地域で応用可能と考えるため、複数回にわたり紹介する。各事業を運営する組織については、概要に記載し、認定計画の概略と事例選択の説明は最終章に記載した。

なお、「歴まちカード」については、認定都市と当省の地方整備局が中心となり製作、発行しているが、今回観光に資する事例として事例紹介の最後にまとめて記載している。

最後に、調査内容はすべて令和4年10月から令和5年1月のものであることを申し添える。

# 歴史的な建造物等の継承と観光、地域活性化 空き家対策 宿泊施設

## 「城泊と城下町ホテル」 (大洲市)

事業主体 一般社団法人キタ・マネジメント

### 概要

町を知り住民と直接関わる行政と、宿泊施設などの事業運営のために人材や資金を集め、知識も集められる一般社団法人や民間企業などが連携し実施している。

町の象徴でもある城郭と生活の場である城下町の魅力を引き出し、さらに周辺の文化財を用い、文字通り大洲市を味わい体験できる取り組みが特徴である。

「城泊」(キャッスルステイ)は、国指定重要文化財の櫓を構える旧大洲城敷地内に復元された天守閣を用いて、かつての城主の入城体験(※)、市内の国指定重要文化財「臥龍山荘」での朝食も提供する。他の宿泊施設は、旧藩主の末裔により建てられた国登録有形文化財の「旧加藤家住宅」のほかに町中に点在する町家などを宿泊用に改修したものだ。受付棟と宿泊棟が町中に点在するため宿泊客は自然に町中を回遊し、町に人のいる状況が作り出される。

### 施設概要

#### 大洲城

大洲城は日本で初めてのお城に泊まることのできる施設である。一組110万円以上の金額設定であるが、その中には、伝統芸能や文化財の保全経費が含まれている。また、空調設備がないため、季節を限定した受け入れを行い、年間三十組を上限としている。

#### 城下町ホテル

町家、民家を改装して宿泊施設としている。一泊の料金を高く設定することで高級感の打ち出しや稼働率との兼ね合いを整理する。

※1617年に大洲藩主加藤貞泰が米子から大洲に転封された際の記録から再現した(「大洲まちづくりブック」より)



天守閣内の宿泊の例



重要文化財の櫓内で提供される食事

※宿泊する天守閣は文化財には指定および登録されていない。

出典 大洲城キャッスルステイ公式サイト

## 改修時の工夫など

外壁などは、多少はがれている状態を維持して年月の経過を見せている。土壁を塗りなおす際は、元の材料を混ぜて塗りなおすことで風合いを保つ等、来訪者が楽しむ視点を考えている。

屋根瓦も、可能な限り再利用する。新しい瓦は、一般的に見えにくい場所に使用する。

また、神社に近い宿泊施設の中庭では、神社の敷地を借景として楽しめるように配慮するという町を楽しむ視点を常に考える。このように敷地の中だけではなく、周辺と町全体を考え整備する。

（関係者の声）町家を宿泊施設に整備する際は、一階を商業施設、二階を宿泊施設と利用方法を以前の町家の使い方と重ねたため、構造的な改修が少なかった。

大洲城を近隣のホテルは、大洲城を望む二階に飲食施設を設置するなど、眺望への配慮も行う。

※平成30年4月にバリューマネジメント株式会社、一般社団法人ノオト、株式会社NOTE、株式会社伊予銀行、大洲市の四者で連携協定を締結し、同年7月に一般社団法人キタ・マネジメントを発足させた。

## 観光との関係

（関係者の声）市民の意識の変化が見られた。当初は、宿泊施設を町中に作ることで騒音や交通渋滞の懸念をしていた人が、実際に事業が開始された後は好意的に受け止めている。空き家だった場所に明かりがともり、夜も安心して歩けるようになったという声も聴く。

土日は多少賑わいが生じる。来訪者は、町の入り口の駐車場に止めてもらい、できるだけ徒歩で回ってもらうよう行政側で車を誘導している。



国登録有形文化財である旧加藤家住宅は、旧大洲藩主の末裔である加藤泰通氏が、大正14（1925）年に建築した住宅である。大洲を代表する近代和風建築の一つであり、宿泊施設として利用するためトイレ、風呂などは改修している。

旧加藤家住宅の外観



町家を活用した宿泊施設NIPPONIA HOTEL

出典 大洲市公式観光情報【VisitOzu】（左）、一般社団法人キタ・マネジメント 大洲市観光地域づくり法人（右）

## 「町家ステイ」（郡上市）

事業主体 一般社団法人郡上八幡産業振興公社

### 概要

郡上八幡の城下町にある町家を改装した一棟貸切の宿泊施設である。一日一組限定で、現在は四軒運営する。木造平屋もしくは木造二階建てであり、いずれも歴史まちづくり計画の重点区域内に設置されている。三軒のうち「甚一」は重要伝統的建造物群保存地区に近接しており、仕事などでの長期滞在利用を想定している。

ほかに、利用時間を日中に限定し、会議や展示会、お茶会などの利用を想定した「草石庵」もある。全て、賃貸物件として公社が所有者より借用し運営している。

### 観光との関係

郡上市全体の観光客数は、最盛期は500から600万人、そのうち郡上八幡地域は100から150万人だった。

以前は、郡上おどりと長良川水系の釣りを目当てにした夏期集中型の観光だったが、現在は年間を通じた観光資源の発掘と発信を行う。大切にしてきた町並み、おもてなしや人の温かさ全てで郡上のブランド化を進めてきた。「町家ステイ」もその一つで、郡上八幡の魅力を新たな角度から味わってもらうための事業である。町中に宿泊することで自然環境やまちの雰囲気より深く味わえる。

観光客の動きを岐阜県内で見ると、下呂に泊まった後の来訪、郡上八幡から隣接する高山市へ向かう、あるいは白川郷へ向かう人が多く、以前は白川郷と郡上八幡を合わせた国内ツアーもあった。元々交通の便がいいことや、近年の高速道路の開通も好影響である。

施設名	施設規模
やなかの大助	定員六名 木造二階建て
襄河溪房	定員四名 木造平屋建て
甚一	定員五名 木造平屋建て
草石庵	木造二階建て

※ 改装費約1400万円、所有者からの賃借料は年間86万円



やなかの大助



襄河溪房から吉田川を望む

出典 一般財団法人郡上八幡産業振興公社公式サイト

## 課題

町家ステイは、住宅地の中に宿泊施設を作ったため、騒音に留意するなど利用者の節度も必要である。

暮らすように泊まるのであれば、宿泊者は隣近所への配慮もかかないようにしたい。

元々海外からの来訪者の利用を想定していたが、新型コロナウイルス感染拡大により、海外からの旅行者による需要が激減した。改装費用と賃貸料を宿泊料で賄う予定だったため、海外渡航や外国人旅行者の入国制限が撤廃された今後に期待を寄せる。

## 歴史的な建造物等の継承と観光、地域活性化 空き家対策 物販、飲食、事務所

事業名「町家および民家活用」（大洲市）

事業者 一般社団法人キタ・マネジメント

### 概要

所有者から借用した民家や町家を改修し、物販用の店舗として貸し出している。出店者は、キタ・マネジメントで選択し、出店交渉も手掛ける。店舗の場所を地域全体の中で考え、観光客などの動線も想定したうえで決定する。例えば人気店には、地域の要となる場所へ出店してもらい話題やにぎわいをつくる。

行政と一般社団法人が連携し、事業に必要な人材集めを行い、個別の事業を成立させる戦略を持ち、さらに事業を継続するところまで視野に入れている事例である。事業継続の観点からは、個別の店舗の力も非常に重要であり、出店を依頼する事業者の選択、出店交渉の手腕も問われる。そうした複合的な課題を乗り越え、実施している点に特徴がある。

### 個別の店舗について

令和4年11月時点で20の事業者が出店している。事業内容は、飲食系では喫茶店、ハンバーガー、クラフトビール、日本酒、ワイン、パン、フルーツサンド、クレープ、レザークラフト、ほかに雑貨販売が挙げられる。今後も数を増やし、事業として継続する予定である。

町を訪れた人も、住民もふらりと立ち寄れる、或いは新商品の発売が楽しみになるようなお店である。日用品や食料品の店舗は、鉄道駅付近にあり、大洲城下に別の種類の商圈を作り出し、新たな地域の魅力となる。

保存整備の歴史の長い地区では、同一地区で飲食店や物販のほかに、観光客向けの土産物、あるいは地元の人の日用品、食材なども販売している場合もある。地域ごとの歴史や方針のある中で、各店舗の継続は地区の維持にもつながり、風致の維持と向上につながる。

大洲市の事例は、前述通り出口戦略まで官民連携により行い、活性化につなげる試みである。

### 課題

（関係者の声）事業としてはこれから。地元の高校でアンケートを行った際に、一連の活動や事業があまり知られていないことを知ったので、今後はより若い世代の認知度を高められるよう展開していく。



古民家再生店舗。二階は宿泊施設

## 「空き家活用」（郡上市）

事業者 一般社団法人郡上八幡産業振興公社

### 概要

市内中心部（歴まち重点区域内）の町家を改装し、物販用店舗あるいは事務所として貸し出している。現在「町家玄麟（旧稲葉邸）」「伊之助」「蔵市HRN865.1（旧平野酒店）」の三カ所である。

三カ所は、公社の所有物件と賃貸物件の違いはあるものの、いずれも改装費用を公社で負担し、物件は小規模に区画割りをして貸し出している。物販、飲食、事務所の入居を想定し、観光客を含めて町中に周遊を促すしかけとなる。

なお、公社の入居する建物は昭和11年に施工され旧八幡町役場として使われてきた。役場が現在の場所に移転した後、平成10年に旧庁舎および土蔵が国登録有形文化財指定を受け、「郡上八幡旧庁舎記念館」として利用されている。歴史的建造物の継承方法の一つである。

### 個別の物件について

「町家玄麟（旧稲葉邸）」は、市が所有者から購入し、改装費約500万円、屋根と塗装費約60万円をかけて整備した。事務所や飲食店に貸し出している。事業開始直後に入居し、小規模な経営から始め、運営が軌道に乗ったら移転する事業者もいる。入居しやすいよう賃料を安く設定しているため、利益は出していない。家賃は年間240万円である。

「蔵市HRN865.1（旧平野酒店）」は、元県知事の旧家の酒蔵であり、川を挟んだ北側に位置する広い敷地を有する。所有者と賃貸契約を結び、改装して貸出している。第一期整備は平成29年から30年に行った。公社の独自事業として約1900万円でトイレと躯体整備を行った。第二期整備事業は、令和元年に実施した。敷地造成、店舗、蔵の外観整備を経済産業省商店街活性化観光消費創出事業を活用し、約7500万円で行った。補助は、そのうち3500万円である。当初は、体験型の土産物店とコーヒー店が出店したものの、コロナ禍による観光客の減少により撤退した。来年度から、新たに三店舗が出店する見込みである。

他に、鉄道駅舎の改修と観光案内所、喫茶店、売店の設置に加え、前出の旧庁舎記念館や公社管轄の施設である城下町プラザにおいて、常設を目指した試験的な出店を手がけている。新商品開発にも取り組み、郡上八幡の湧水に着目した商品の開発を行っている。



貸出し物件の一つである町家玄麟の正面

## 観光関連

### (関係者からの声)

観光客の滞在時間は平均二時間程度である。以前と比較して行動に変化が見られるのは教育旅行である。以前は親が弁当を持たせていたが、今は町の中で自由に飲食させているため、食による対応も検討が必要かもしれない。

繰り返し来ってもらうためには、新鮮な感動が必要であり、迎える側は見せる内容や体験などを更新する必要がある。また、店舗に入った際の何気ない会話など人との交流も大切である。

郡上八幡は、(来訪者の増える)郡上おどりの期間もごみ箱を町中に設置しない。(決して道ばたにごみを捨てていいわけではないものの)落ち葉やゴミを町の人が掃除をすることが当たり前になっていて、家の前で掃除をしていれば「きれいな町だね」といってもらえる。そんなところからも交流が生まれる。



蔵市HRN865.1

自治体の規模に依拠する部分はあるが、郡上市の地元の魅力を発信する観光用の公式サイトやパンフレット、それらを作る行政と公社、地元の緊密な連携に特徴が見られる。いずれの組織においても全体を見渡せ、お互いの得意分野を持ちよる手法といえる。



## 飲食

### 「チームまちや」(郡上市)

事業者 一般社団法人郡上八幡産業振興公社(公社内プロジェクト)

#### 概要

一般社団法人郡上八幡産業振興公社においてチームまちやは空き家対策に特化した部門であり、直接空き家を改修し、入居者の募集を行う点が他の市内の組織と異なる。

貸し出した町家の利用方法は様々で、住宅専用以外にも工房や店舗、セミナー教室などを兼用した住まいなど様々な使われ方がされている。例えば手作りのギター工房や郡上の食材を活かしたイタリアンやフレンチのレストランなどに活用されている。入居者の事業内容に合わせてチームまちや所有者が物件を選択し、入居者に提示している。

一方、物件周辺の環境も考慮して閑静な路地裏地区に不特定多数の往来が想定される飲食店などの立地は避けるなど、多面的な配慮もチームまちやで行っている。

#### 歴史まちづくり事業の活用

街並み環境整備事業と景観改善推進事業、外観の改修、歴史的風致形成事業(予定)

#### 課題

近年対応を求められる脱炭素、断熱化が難しい。継承する意義とともに国土交通省住宅局による「歴史的建築物の活用に向けた条例整備ガイドライン」も参照しながら対応可能性を検討する。

## レストランLE UN(ルアン) NIPPONIA HOTEL大洲城下町(大洲市)

事業者 バリューマネジメント株式会社

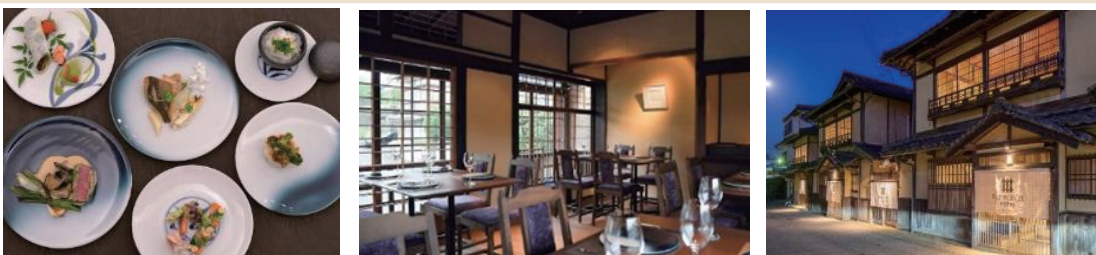
#### 概要

大洲城の近くにある町家を再生したレストランである。瀬戸内海の海の幸、川の幸など愛媛県や大洲市の自然を感じられる四季の食材を用いた料理を提供する。毎年、そして季節ごとに変わる料理を目当てに訪れる人も多い。

町全体を使う利用方法は、建物の再生に限らず地域全体の振興につながる。

(関係者の声)

料理は重要であり、かつ再訪を促すものだと考えている。



歴史ある建物で地元食材を使った料理を提供

## 歴史的な建造物等の継承と観光、地域活性化 空き家対策 継承して暮らす

「あじき路地」(京都市)  
事業者 安食家

### 概要

清水五条に、昔ながらの京都の長屋があり、二十代から三十代のものづくりを志す若者に格安で貸している。地主であり大家でもある安食家で管理している。平成14年末、大家家族の知人の提案をきっかけに改修に取り組み今に至る。なお、敷地内の平屋のうち二軒は、住居ではない。

現代に生きる京都の町家という魅力のためか、映画やドラマ、漫画の舞台にもなった。京都市の景観賞なども受賞。私有地のため撮影等で利用する場合は、予め許可を得る必要がある。

### 改修および維持管理とその費用

改修は、入居決定後、入居者の希望により内部のみ行える。図面などを事前に提出してもらい許可を出す方式をとっている。原則、現状復旧を求めているが、安食氏が復旧しなくとも問題なしと判断すれば、退去時にそのままでも構わない。

初期の改修費用は、一部を国と市から補助を受け、不足分は安食家が負担し、電気、ガス、水道の修理、耐震補強、屋根の吹き替えに使った。それ以外は入居者、大家で施工した。平成16年2月から3月に改修工事を行い、入居は平成16年6月だった。

### 入居者募集方法

当初は京都市の町家倶楽部ネットワークの公式サイトを利用したが、その後はあじき路地独自のサイトで募集している。

入居者を決定するために半年ほどかかる。十数名の申込者全員の面接を行い、原則としてあじき路地を拠点として活動したい人に入居してもらう。時間をかけて入居者を決めることで、入居後に起こりえる問題を極力回避する。例えば夜間に騒音の出るような活動はお断りしている。市外からの入居希望者が多い。

外観は格子、土壁、漆喰等を原則としている。二階の軒に簾をかけて、日よけや目隠しとすると同時に意匠の統一を図っている。

私有地であることを示す看板を設置する際には、路地の雰囲気合うように、意匠を工夫している。

路地の最奥部のコンクリート舗装となっていた場所を庭として整備した。既存の井戸を修復し、外観部分の保全を行い、庭には花木を植えている。



あじき路地を敷地内から入り口に向かって見る

## 入居から退去まで

路地の掃除当番、お地蔵さんの清掃当番を入居者全員で行う。

臭いや音など、他の入居者の迷惑になるような行為、宗教や政治に関する活動は不可とする。

当初から若手支援としていたため、事業が軌道に乗り転居する場合もある。そうした人のところへ、現入居者を連れて見学に行くこともある。また、結婚して子供ができたのち退去する例が多い。

## その他防災対策など

平成30年7月に近所で大火災が発生した。被災はしなかったが防災対策として火災報知設備を設置し、全入居者に消火器を配布した。



日よけや目隠しとして簾を活用



路地奥に新たに整備された庭



来訪者へのお願いを書いた立札

## (関係者の声)

平成26年に京都市景観賞建築部門の優秀賞を受賞、平成28年に京都商工会議所から京都創造者大賞（未来への飛翔部門）受賞のほかにも様々な賞を受賞した。受賞は嬉しく、特に著名な施設と並んで受賞できたことは印象深い。ほかにも映画やドラマ、漫画の舞台となった。NHKのドキュメンタリー番組のアーカイブズであじき路地を取り上げた番組が一位になったことなどもあり、関心を持ってもらえることは嬉しい。町家であるため、絵になりやすいのだろうと思う。

今後は子育て世代の入居を増やして周辺との関係を作ったり、全国で同じように独自にまちづくりをしている人につながり、情報交換や商品開発も行いたい。

## 課題

無断の商用利用を目的とした撮影が多いことなど、有名であるが故に生じる問題がある。

また、都市部でもあり、地価の上昇による近隣の土地の転売や少子高齢化による所有者の変化が、あじき路地周辺の雰囲気やあじき路地自体に影響している可能性も否めない。

## 「チームまちや」

事業者 一般社団法人産業振興公社（同公社内プロジェクトチーム）

### 組織概要

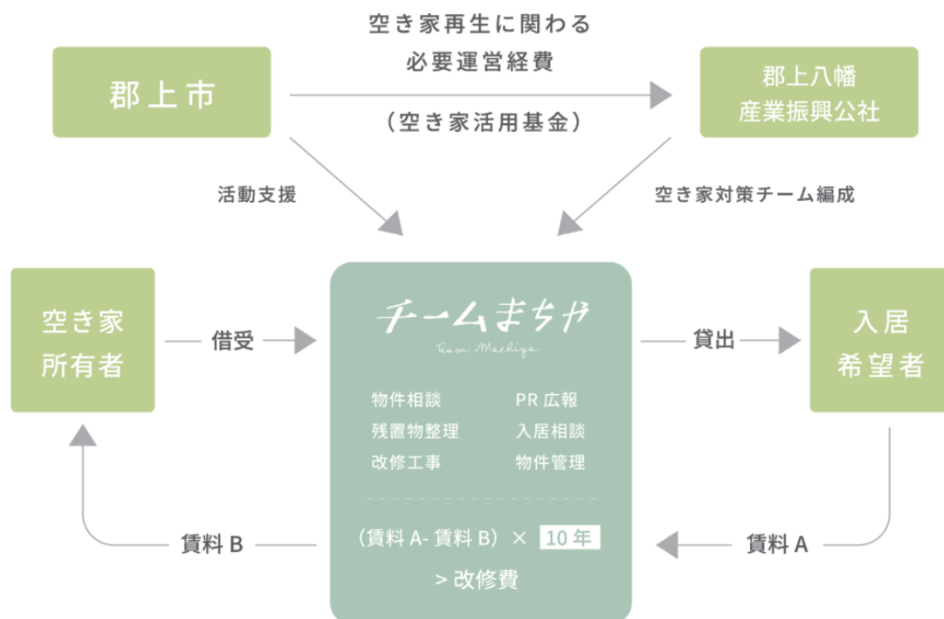
空き家の解消は、改修前の現所有者の荷物整理、必要に応じた相続手続き、改修費の手当、入居者募集、家賃回収、建物の改修と維持管理、入居者が地域になじめるように目を配ることなど様々な課題がある。全てが成立して空き家の解消につながるため、全てをまとめて引き受けられる「組織が必要だと考えた。

また、行政の取り組みとして改修などの費用は戻ってくる仕組みとした。

設立理由は、空き家が平成以降目立ち始め、住民に指摘されながら平成12年に207件、その後353件まで増加したことである。

### 成果

これまでに三十七軒の改修を実施。十軒が住宅兼事業所、二十軒は住居として使用されている。入居者は合計七十名ほどで、子供二十名を含む。大半が三十から四十代である。



「チームまちや」の空き家探しから入居者募集と決定、賃料回収まで  
出典「チームまちや」公式サイト

「チームまちや」は三人体制で空き家に特化した再生事業を実施している。貸し出しを前提とするため、工事費用と家賃の兼ね合い、収益などの検討も必要である。

郡上市、一般財団法人郡上八幡産業振興公社とともに歴史的な建造物等や空き家を継承する体制が複層的に存在することで、多様な対応が可能となり、活性化につながっているのではないか。

### (関係者の声)

市全体の多様な空き家対策の一つである。市の空き家バンク、チームまちやの活動を見た民間企業が類似の事業を行うなど、多種多様な空き家対策の促進につながっている。

空家数も増加から横ばいに変化しつつあり、事業は空き家対策に貢献していると感じる。

### 空き家選定

空き家は、廃屋に近いものから、最近まで使われていたものまで様々である。移住者が前向きに住めるといった観点が重要であり、極端に広いあるいは狭い物件は選択しない。

改修費用を家賃収入で賄うため、家賃の相場が改修費用によって決まる。したがって、改修費用を家賃でまかなえない状態の物件は選択しない。

所有者と十年間の賃貸契約を結び、その後は所有者が住むか、継続して入居してもらう、あるいは買い上げてもらうことを想定しているため、所有者が十年後に売買するなど手放す予定の物件も選択しない。

「チームまちや」で扱えない物件は、市内の他の空き家対策事業と情報共有し、対応する。

### 近隣住民との関係

所有者から物件を借りる段階で近隣住民にチームまちやから説明をしている。その後、改修工事から町内会に入居者を紹介するまで携わり、新住民の定住を促す。

### 課題

十年間の事業期間終了後の方向として、所有者から継続して借用する、所有者に返す、入居者が購入するという三通りを想定している。継続借用は、賃貸料の問題が発生する可能性もあり、これまでと異なる事業を考える必要がある。

今後は人件費、修繕費の捻出を考える必要がある。物件が増えれば、職員の増員も必要であり、その際の人件費を得るための収入を得る方法の検討も必要である。

事業継続の観点からは、「チームまちや」の後継者探しも必要である。



改修したまちやの例（内外装）

## 歴史的な建造物等の継承と観光、地域活性化 町を継承して暮らす

### 重要伝統的建造物群保存地区「郡上市郡上八幡北町」（平成24年選定）

事業主体 郡上市、一般社団法人郡上八幡産業振興公社

#### 観光との関係

従来から観光地であり、住民協定により景観を維持されてきた。例えば、家を直す際に郡上市伝統的建造物群保存地区保存条例があり、市の教育委員会に確認をして行っている。景観整備事業として平成24年から令和4年5月に市の建設部で無電柱化を実施した。また、市の教育委員会で観光の拠点施設として「まちなみ交流館」を整備し、令和2年6月に開館した。公社では観光案内人を育成する際、「郡上八幡博覧館」を起点として必ず保存地区を訪れるよう指導する。繁忙期は、駐車場の案内を配置したり、自家用車の通行を制限してシャトルバスや徒歩の案内を行う。

吉田川を挟んだ南側の地区は、歴史的風致維持向上計画の重点区域に指定されており、重要伝統的建造物群保存地区の取り組みを生かしたまちづくりも可能なのではないか。例えば選定された北の武家町に対して、南は商家町といわれているため、その風致を維持することで他の町と差別化を図れる。郡上八幡にしかない風景、ということであれば、来訪者にとって何度も訪れる意味のある場所になる。

#### 課題

駐車場の立地に起因すると推測できる観光客の動線を、重要伝統的建造物群保存地区を含めた全体に促せるような工夫も必要である。歴まちカードのような事業を用いることも必要である。

#### （関係者の声）

観光客が来訪し、町並みを賞賛されることで、自分たちのやってきたことに誇りを持ち、住民の意識も向上している。それが町並みをさらによくするという好循環に入っているように感じる。

## 歴史的な建造物等の継承と観光、地域活性化 ものづくりとまちづくり

### 「あじき路地」(京都市)

京都には町家倶楽部という非営利団体がある。また、町家を宿泊施設として提供する組織もある。あじき路地はどちらとも異なり、土地所有者兼大家が長屋を改修し店子と関係を築き、周辺と関わろうとする試みである。店子はものづくりを目指す人材が多い。また、シンガーソングライターの南壽(なす)あさ子による「あじき路地」のテーマソング制作や大家自身の事業運営など、情報発信や新規事業立ち上げを通じ路地の維持管理を行うことは、京都市の認定計画の歴史的風致「ものづくり・商い・もてなしのまち京都」にもつながる。

### 「誉勘商店」(京都市)

#### 観光、歴史的風致との関係

西陣織は分業制が敷かれ、地域一帯が工場となる。そうした地域の風致もまた、歴史まちづくりの中に位置づけられている。

国内に所在する伝統産業の四分の一が京都にあるものの、一軒ずつの維持は各事業者の努力により行われ、時代に合わせて歴史と伝統をつなげていくことが求められている。

伝統産業の維持が歴史的風致の維持につながることは明白である一方、伝統産業の維持と継承のあり方を考えなくてはならない。歴史的建造物の保護や活用、地区としての整備については一定の知見が蓄積されてきた。一方で、歴史的風致を形成する産業自体の維持については、確立した手法はほぼない。人々の営みを歴史的風致に位置づけるのであれば、こうした産業の維持と継承の検討も求められる。

紹介する誉勘商店の建物は、蛤御門の変(1864年)で焼失し、明治9(1876)年に再建されたといわれている。再建以前の古材も使われているといわれ、虫籠(むしこ)窓と呼ばれる土壁の格子を二階に有し、歴史まちづくり法に基づく「歴史的風致形成建造物」に指定されている。夜は、店内に明かりを灯して中の装束を見せている。



店舗正面



店内に置かれた反物や柄見本

## 概要

誉勤商店は金色の糸を用いて金模様を織り出す「金襴」という絹織物を商う織物問屋である。当時の古文書によれば、宝暦元（1751）年に誉田屋勘兵衛が本家の誉田屋庄兵衛から暖簾分けを許され、室町冷泉町で創業した。本家は帯を扱っていたため、商売敵とならないよう、法衣や装束、舞台衣装、人形衣装など本家で扱わない分野で商いをしてきた。

京都で開催されたデザインウィークへの参加、歴史的な建物の中で定期的に行うワークショップ、閉店時の陳列のほかに、ソーシャルネットワークによる発信など、様々な試みを行い継承に努める。

### （関係者の声）

西陣織は歴史が長く、習得すべき技術も多岐にわたる。伝統を受け継ぐために、事業者は十分な技術を習得する必要があると考えている。化学繊維では出せない複雑な色合いを出せることは強みであるものの、写真の印象で品の善し悪しを判断する時代に合わせた商品開発も必要である。

「DESIGN WEEK KYOTO」に参加し、店頭で旗を立てた際、店舗に入ってくる人もいた。外から何をしているかわからない風土が京都にはあるものの、自ら発信する潮流に合わせて変わる必要性を感じる。ソーシャルネットワークや店の公式サイトを整備などはその一環である。

建物の使い勝手は必ずしもいいわけではないものの、ここまで残ってきたのだから生かしたい。

### （関係者の声）

伝統産業の継承方法の一つとして質のよい品を必要とする、或いは好む層へ売り込む方法を模索している。行政全体で情報共有を行い検討することが、伝統産業全体の後押しになるかもしれない。

絹織物に触れてもらう機会を作るため、マカロンポーチ製作のワークショップを開催している。約一時間で生地を選択から完成品の持ち帰りとなる。定員は、指導可能な5名としている。当主から絹織物の話を聞き、歴史的な建物も味わえる。

玄関は上がり框で靴を脱いで商品を見る。

来店は口コミの人が多く、海外からのお客として、ベトナム人の僧侶の団体を受け入れたこともある。他に、デザイナーが関心を持ったこともある



マカロンポーチの見本



## 「郡上おどり」(郡上市)

事業者 郡上市

### 概要

郡上で四百年以上にわたり唄い踊り繋がれてきた郡上おどりは、江戸時代の初期に郡上八幡城主の遠藤慶隆(えんどう よしたか)が領民の融和を図るため、藩内各所の踊りを城下町に集め、奨励したことが今に残る礎になったと伝えられている(郡上市公式サイトより)。地元の人は無論、来訪者が気軽に参加できる踊りとしても親しまれ、参加者の年齢層は幅広い。来訪者に向けた取り組みの主な三点は、郡上おどりの講習会を通年で開催する、実演を見られる施設を整備する、繰り返し参加する人には免許を与えることが挙げられる。来訪者に応じた楽しみを設け、周知を図る。

※郡上おどりは、令和4年11月30日に日本各地で伝承されてきた盆踊りなど、お囃子に合わせて踊る日本の民俗芸能「風流踊」の一つとして無形文化遺産に登録された。市内には明宝の寒水地区に伝承される太鼓踊り「寒水の掛踊」もある(文化庁公式サイトより)。

## 「特典付き食べ歩き企画」(郡上市)

事業者 一般社団法人郡上八幡産業振興公社

### 概要

郡上市内の中心部を対象とした特典付きの食べ歩き観光地図を販売し、来訪者の周遊を促す企画である。食べ歩きを完了した人に記念品を渡すことにしたため、特に海外からの来訪者(※)に関心を持ってもらえた。合わせて、郡上おどりの通年の見学も案内している。また、食べ歩きを含めた滞在時間の目安を記載するなど、観光のしやすさを工夫している。

地図は観光客の市街地散策に効果があり、滞在時間の延長、店舗における客数増加につながった。ほかに、郡上市の食を発信するため、市の物産品を時期を見計らい販売するなど、来訪者に限らない情報発信を行う。

※中国、台湾、タイが上位を占める。

郡上八幡 インバウンド団体様向けプラン「郡上おどり実演紹介&城下町食べ歩きプラン」\*2022年版

ミュージアム 郡上八幡博覧館 \*見学時間 20~30分  
・郡上おどりの実演紹介&ミュージアム見学

郡上八幡の城下町 食べ歩き3品 \*所要時間 70分~80分  
・みたらしだんご  
・栗どらやき(夏は別の和菓子)  
・食品サンプルキーホルダー(みかん)

料金 大人 1,000円 net  
小人 850円 net  
※予約制(突然のご来館の場合ご利用できません)  
※部員様には各お店の引き換えクーポンを渡します。  
(全員に1枚のクーポンはありません)

郡上八幡博覧館  
郡上おどり実演

みたらし団子  
団子茶屋

栗どらやき  
郡上八幡旧庁舎記念館

食品サンプルキーホルダー

食べ歩き用の地図(令和4年版)

# 歴まちカード

「歴まちカード」は、表面に各認定都市の象徴的な写真を、裏面に歴史まちづくり情報を載せた名刺大のカード型案内です。

各都市のカードから、各都市の歴史的風致に関心を持ち、歴史的風致を軸とした回遊と、カード収集を目的に含めた近隣の歴まち認定都市の周遊促進を狙いとしています。

配布場所は各認定都市が定めており、各都市の公式サイトもしくは、下記の地方整備局の公式サイトから御案内しています。

## 各地方整備局の歴まちカード配布場所

東北地方整備局管轄内

<https://www.thr.mlit.go.jp/bumon/b06111/kenseibup/machishien/rekimachi/rekimachi.htm>

関東地方整備局管轄内

[https://www.ktr.mlit.go.jp/city\\_park/machi/city\\_park\\_machi00000144.html](https://www.ktr.mlit.go.jp/city_park/machi/city_park_machi00000144.html)

中部地方整備局管轄内

<https://www.cbr.mlit.go.jp/kensei/rekimachicard/>

近畿地方整備局管轄内

<https://www.kkr.mlit.go.jp/kensei/town/rekimachi/index.card.html>

中国地方整備局管轄内（準備中）

四国地方整備局管轄内（準備中）

九州地方整備局管轄内

[http://www.qsr.mlit.go.jp/n-park/3\\_kyushu\\_rekimachi\\_card/kyushu\\_rekimachi\\_card.html](http://www.qsr.mlit.go.jp/n-park/3_kyushu_rekimachi_card/kyushu_rekimachi_card.html)

※北海道と沖縄に歴まち認定都市はありません（令和5年2月末時点）

## 歴史資源の観光まちづくりへの活用の取り組み事例の概略

### ■京都府京都市

(「京都市歴史的風致維持向上計画」平成21年11月19日認定)

#### 対象事例の位置づけ

京都市では維持向上すべき歴史的風致の中に「ものづくり・商い・もてなしのまち京都」「暮らしに息づくハレとケのまち京都」を挙げている。

歴史的建造物を多数擁し、重層的に保護、保全、整備事業を実施する中で、歴史的風致の維持として伝統産業や人々の営みも地域を形成する重要な要素であるため調査の対象とした。

「ものづくり・商い・もてなしのまち京都」

西陣織は京都を代表する伝統産業に位置づけられている。その生産は多数の工程に分業され、それぞれに高度な専門技能が必要である。西陣織の工業地域としての特徴は、高度に分業化された機業者が集住し、地域が一つの工場を形成している点である。各工程を結ぶ存在の地場問屋として、今回は「誉勘商店」を対象とした。

「暮らしに息づくハレとケのまち京都」

「京のまち・路地に継承される地域との関わり」の中で、路地に向かい合う町家を再生し、路地の両側でコミュニティを形成している事例として「あじき路地」が紹介されており、調査対象とした。「ものづくり・商い・もてなしのまち京都」にもつながる。

### ■愛媛県大洲市

(「大洲市歴史的風致維持向上計画」平成24年3月5日認定)

#### 対象事例の位置づけ

大洲市では、市役所、事業者、銀行が参画する一般社団法人キタマネジメントを設立し、町家等および文化財等を用いた重点区域内の整備を行っている。地域全体の歴史的資源の再発見と整備、活用の事例として調査の対象とした。

(令和3年グッドデザイン賞受賞、第14回観光庁長官表彰 令和4年10月1日受賞)

### ■岐阜県郡上市

(「郡上市歴史的風致維持向上計画」平成26年2月14日認定)

#### 対象事例の位置づけ

郡上市では、市役所および一般財団法人郡上八幡産業振興公社が、町家や歴史的建造物の再生、活用に取り組んでいる。

地域全体の活性化を念頭に、空き家対策のための移住促進と観光地整備の双方を採り入れ、かつ歴史的風致の維持につながる事業に取り組む事例として紹介する。

同公社内の「チームまちや」は平成27年6月に空き家再生に特化したプロジェクトチームとして結成された。結成後、八年間で三十七軒の町家を再生し、移住者約七十名を受け入れた。

空き家再生事業は、移住促進を視野に入れた歴史的風致維持向上計画推進の新たな手法として参考となるため、事例調査の対象とした。

## 事業目的別事例一覧

継承	伝統を継承する ものづくりと まちづくり		誉勤商店（京都市）  郡上おどり（郡上市）  「臥龍山荘」での文化体験（大洲市）  特典付き食べ歩き（郡上市）  重要伝統的建造物群保存地区 郡上市郡上八幡北町  あじき路地（京都市）
	町を継承して暮らす		
	継承して暮らす	住宅専用	
空き家対策	住宅	物販、工房等との兼用	チームまちや（郡上市）
	宿泊施設		城泊（大洲市） NIPPONIA HOTEL（大洲市）
	飲食店 物販 事務所		町家ステイ（郡上市） 町家および民家活用（大洲市） レストランLE UN（ルアン）（大洲市）

### 事例の運営組織

京都府京都市	株式会社誉勤商店、あじき路地
愛媛県大洲市	一般社団法人キタ・マネジメントなど
岐阜県郡上市	一般社団法人郡上八幡産業振興公社など